

箕面市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通活性化・再生総合事業

事業期間
22～24年度

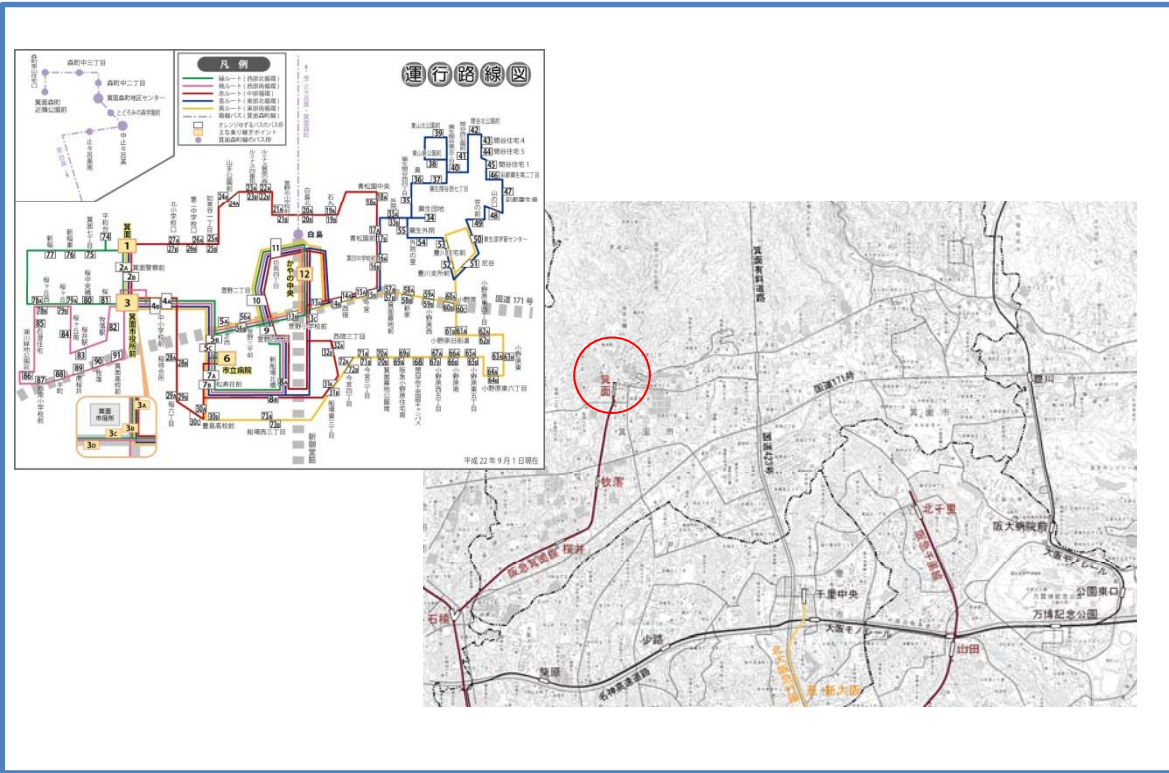
市内移動を中心としたバス路線網と鉄道との連携等を改善し、生活交通の確保、環境負荷の軽減、市民活動の促進、地域商業の活性化等を目的とした公共交通体系を構築する。また、箕面市民が市内の移動にとどまらず、広域の移動においても積極的に公共交通で移動することや、市外からの来訪者に対する公共交通サービスの向上等を促進するため、阪急箕面線との連携を図る。

【箕面市地域公共交通活性化協議会】
箕面市、大阪府、阪急電鉄(株)、阪急バス(株)、市民団体、商業者、学識経験者、道路管理者、近畿運輸局など

事業の概要(22年度)

①交通案内所の設置

阪急箕面駅の駅舎の一部に交通案内所を開設
21,257千円



②イベントキャンペーンの共同開催

阪急箕面駅で交通案内所開設と合わせてイベントキャンペーンの実施。3,635千円



③新規バスの乗り入れ

コミュニティバスの実証運行



22年度 導入への プロセス

○箕面市における交通面の課題は、大阪都心への結節強化や市内移動における公共交通の利便性向上等により過度な自家用車依存から脱却し、公共交通主体へのまちづくりへ転換を図ることである。

○公共交通の活性化のために公共施設巡回福祉バスと路線バスとの連携または一体化による市内移動を中心としたバスネットワークの見直しを行う必要があり、市民等幅広い関係者で構成する箕面市地域公共交通活性化協議会を設置し、箕面市地域公共交通総合連携計画を策定のうえ、新たなバスの実証実験を目指した。

22年度 事業の 効果

新たなバスの実証運行

公共施設循環福祉バスに代わって新たに市内を巡回するバスを実証運行させた。

路線バスと新たなバスとの連携

箕面市全体の公共交通サービスを維持向上するという視点から、サービスの共通化・共同実施、役割分担、課題解決に向けた取り組みの実施等について、スルットKANSAIやPiTaPa、ICOCAの共通利用による路線バスや鉄道との連携により利用者の利便性が向上した。

鉄道と新たなバスの連携

①交通案内所の設置

箕面駅に箕面 交通・観光案内所を設置し、鉄道とバス、タクシー等の乗り継ぎの案内やバス定期券や回数券等の販売を行い、利用者の利便性が向上した。また、新たなバスの運行状況がわかるデジタルサイネージを設置し、乗り継ぎ利便性の向上を図った。

②イベントキャンペーンの共同開催

鉄道と新たなバスが連携してイベントキャンペーンを共同開催することにより公共交通を利用した箕面市への来訪と市内の周遊を行ってもらうことができた。また、利用促進キャンペーンを同時開催することにより、回数券等の購入が増え、利用促進が図れた。

次年度 以降

新たなバスの実証運行の平成22年度の収支率を計画指標の目標値に引き上げるため、次年度以降は、より効率性・採算性と利便性を考慮した運行サービスを目指し、市民協働で運行内容の評価・見直しを実施し、持続可能な公共交通を目指す。

箕面、市役所、市立病院及びかやの中央などの拠点間のバスの利便性を向上させることにより、バスを利用して箕面駅に来訪する利用者の増加を図る。

箕面 交通・観光案内所で引き続き、新たなバスの回数券、定期券の販売、鉄道と連携した利用促進を図る。